

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	教授	氏名	江上 千代美
----	-------------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

### 親のレジリエンスを高めるための家族支援に関する介入研究

**親の養育レジリエンスの向上**：トリプルP (positive parenting program) という認知行動療法を用いて、親の養育レジリエンスの向上を目指す介入とそのメカニズムを明らかにする研究を行っています。また、子育てスタイル、ストレス（生体指標と質問紙）、子どもの行動等の関係性を明らかにすることも行っています。トリプルPを学んだ親は「子育てが楽しくなった。」、「子育てに自信がついた」、「もう一人子どもを産んでみようかな。」という感想がよく聞かれ、未来を担う健全な子どもの育成や少子化対策にもつながっています。トリプルPの名前にも反映しているように子どもをもつ全ての親が楽しく学ぶことで健全な家族づくり、ひいては健全な街づくりを目指すことができます。

### 観察力に反映する看護アセスメントのシュミレーションシステムの開発

「目は心の鏡」に、代表されるように、目の動きは人の精神生理的な指標であり、目の動きにはさまざまな人の行動理解や支援の手がかりが含まれています。これまで行ってきた発達障害の対人的視覚認知機能障害や不注意等の解明と支援につながる研究をもとに、現在、看護学生や看護師のセーフティ・マネジメント支援を目標とした臨床に活かせる研究を行っています。さまざまな看護場面におかれたときに看護学生や看護師はどのような目の動きをするのか、教育や経験により異なるのか、変化しない場合には何が影響しているのかという検討を基に、どのようなセーフティ・マネジメント支援の必要性があるのか、どのような集団教育および個人教育につなげる必要があるのか課題提示と支援プログラムの開発に取り組んでいます。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・ Egami C, Yamashita Y, Tada Y, Anai C, Mukasa A, Yuge K, Nagamitsu S, Matsuishi(2015). Developmental trajectories for attention and working memory in healthy Japanese school-aged children. *Brain Dev*,37(9),840-8.
- ・ 江上千代美,長坂猛,近藤美幸,井垣通人,田中美智子(2014). 下腹部と腰部の温罨法が生体に及ぼす効果の検討, 福岡県立大学看護学研究紀要,11(2),45-51.
- ・ 江上千代美,長坂猛,近藤美幸,井垣通人,田中美智子(2014). 温罨法が末梢と心臓の自律神経系に及ぼす効果, 日本看護技術学会,12(3),34-9,2014.
- ・ Ohya T, Morita K, Yamashita Y, Egami C, Ishii Y, Nagamitsu S, Matsuishi T. Impaired exploratory eye movements in children with Asperger's syndrome. *Brain Dev*. 36(3), 241-7, 2014.
- ・ 江上千代美,近藤美幸,福田恭介,田中美智子(2012). 看護場面における看護学生の危険認知力評価-眼球運動指標の活用-. 福岡県立大学看護学研究紀要,10:13-20.
- ・ 江上千代美,近藤美幸,福田恭介,田中美智子,他(2012). 看護場面における看護学生の危険認知と眼球運動との関係. 看護人間工学研究誌,12:15-20.

### ②その他最近の業績

- ・ 江上千代美,山下裕史朗(2015). 発達障がい児をもった母親の養育レジリエンス向上に向けた支援~母親の変化と子どもの行動~, 第24回日本LD学会,佐賀,349-350.
- ・ 江上千代美,田中美智子他,医療安全教育の有用性-眼球運動から解析した危険認知の変化-, 第12回日本看護技術学会 (浜松)
- ・ 江上千代美,田中美智子他,看護場面における看護師と看護学生の眼球運動から類推される危険認知の比較, 第39回日本看護研究学会(秋田)

- ・ 江上千代美,長坂猛,田中美智子他,温曇法除去後の生体反応,第 20 回看護人間工学部会,横浜,2012.
- ・ 江上千代美,田中美智子,近藤美幸,福田恭介. 看護場面における看護学生の眼球運動と危険認知の特徴.日本看護研究学会,沖縄,2012.
- ・ 江上千代美,田中美智子,近藤美幸,福田恭介. 危険認知評価に用いる眼球運動指標の有効性—看護師の危険認知—,福岡,2012.
- ・ Yamashita Y, Egami C,et.al . Effects of a Summer treatment program in Japan: used for ADHD battery assessment, The 1st Asian Congress on ADHD,seoul,2012

### ③過去の主要業績

- ・ Yushiro Yamashita , Akiko Mukasa , Chizuru Anai , Yuko Honda , Chie Kunisaki ,Junichi Koutaki, Yahuiro Tada, Chiyomi Egami, Naoko Kodama, Masayuki Nakashima, Shin-ichiro Nagamitsu , Toyojiro Matsuishi:Summer treatment program for children with attention deficit hyperactivity disorder: Japanese experience in 5 years. Brain Dev. 33, 260-7, 2011.
- ・ 江上千代美, 森田喜一郎, 石井洋平, 大矢崇志, 山下裕史朗, 松石豊次郎. アスペルガー障害児と健康児における探索眼球運動の比較検討, 臨床神経生理学,38:63-70,2010.
- ・ Egami C ,Morita K, Ohya T, Ishii Y, Yamashita Y, Matsuishi T: Developmental characteristics of visual cognitive function during childhood according to exploratory eye movements. Brain Dev. 31(10), 750-7, 2009.

### 3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究(C)）27年度～29年度 交付金額4,810千円  
研究課題、トリプルP介入によって発達障害児をもつ母親の子育てレジリエンスは向上するか

4.

### 5. 所属学会

日本生理学会会員、日本小児神経学会会員、日本LD学会会員、日本看護学教育学会会員、日本看護研究学会会員、日本看護技術学会会員、看護人間工学部会員、日本看護科学学会会員

### 6. 担当授業科目

〈学部〉

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年次・前期, 生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年次・後期, 生態・病態看護学実験 2単位・2年次, 専門看護学ゼミ・2単位・3年次・通年, 総合実習・2単位・4年次・前期, 卒業研究・2単位・4年次・通年, 不登校引きこもり応用演習・2単位・4年次

〈大学院〉

Advanced 生理学・病態生理学・2単位・1年次

### 7. 社会貢献活動

トリプルP実践活動：久留米市・飯塚病院小児科・田川（福岡県立大学）

### 8. 学外講義・講演

- ・ 「トリプルP実践してみよう」2017年
- ・ トリプルP講演会 主催：幼児研究所 2017年
- ・ 眼球運動から見える看護 主催：人間工学部会 宮崎 2015年

### 9. 研究所の活動等

- ・ 久留米大学小児科学

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員